

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	金沢工業大学				
取 組 名 称	KIT 環境マインド醸成プロジェクトの実践				
取組学部等	環境・建築学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A22165	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申 請 の 分 類	FD・SD	地域活性化		環境教育	
キ ー ワ ー ド	環境マインド, 環境問題, 俯瞰的な視点, 横断的なFD活動, 問題発見解決プロセス				

<選定理由>

本取組は、世界規模で対応が迫られている地球環境問題を、大学が位置する地域の環境問題とリンクさせて、地域の企業、住民、学生が協同して行う学習フィールドを構築して実践的に環境教育を行おうとする意欲的な取組である。特に、環境・建築学部の教育方針に連動させて、学部・学科・研究室の枠を超えた横断的な教育体制のもとで、環境問題を基軸に据えた、問題発見解決プロセスを盛り込んだ教育プロジェクトを実践しようとする本取組は、学生自ら学び行動を起こすという学生を自律させる視点からの教育効果が多いに期待できる。また、学習プロセスを計画、実践、評価、改善・展開の4つのフェーズに分けて、着実に推進できるように具体的に実行計画を立てていることも高く評価できる。

今後は、提案された環境問題をキーワードとする教育プログラムを進行させていく過程で多様な課題に直面することが予想されるので、これらの諸問題を分析・評価する体制を整え、継続性のある教育プログラムに仕上げ、取組本来の教育目的を達成されることを期待する。

取組の概要【1ページ以内】

金沢工業大学（以下本学）では、建学の理念“人間形成・技術革新・産学協同”に基づき、教育実践目標を「自ら考え行動する技術者の育成」と明確に定めています。その教育目標の実現に向けた教育実践の基軸は、教員が「教える教育」から、学生が「自ら学ぶ教育」への転換にあります。これは、学生、教職員がお互いに必要な知識を与え合い、共同と共創による知恵の生産を行う場の構築に取り組むことを意味し、このことが、質の高い教育を実現する上で最も重要なことであると位置付けられています。

以上を踏まえ、めまぐるしく変化する社会の中で活躍する技術者を育成するためには、従来の専門領域を縦割りにした教育実践だけではなく、社会環境の変化からもたらされるさまざまな社会ニーズに基づく横断的な教育を実践することが求められます。

そこで本取組では、本学の教育実践の特色である、「問題発見解決プロセス」が盛り込まれたプロジェクト型の教育実践に対して、「環境問題」という社会的な制約条件を盛り込むことで、今後社会の中で活躍する技術者に求められる「環境マインド」を醸成する「KIT 環境マインド醸成プロジェクト」を実践いたします。ここでいう「環境マインド」とは、技術者として単に環境問題に対応する知識や認識を持つことではありません。それは、地域社会さらには地球規模で求められる環境問題に対し、俯瞰的な視点を持ち、自らの立場で取り組むべき対応やその意義を理解しながら問題解決を進めていく姿勢を指します。

その教育プロジェクトの実践には、これまで各分野で展開されてきた局所的な環境問題への対応に取り組む教育実践に加え、個々の環境問題への取組を有機的に連携し、学生が社会にもたらす実質的な成果を意識できる学習フィールドを構築しなければなりません。

本取組では、北陸エリアを一つの対象環境として捉え、その地形、都市構成から俯瞰的な視点による環境問題への対応をプロジェクトテーマとして挙げていきます。この様な固有の地域特性を有した地域社会への提案としての教育プロジェクトに対し、関連する本学のパートナー企業への連携や、そこに住む地域住民、子供達への参加を投げかけ学生、企業、住民が協同して行う独自の学習フィールドを構築します。さらに、個々の教育プロジェクトが見出した解決策や成果を持ち寄り、それらを有機的に連携することで、「ポイント」⇔「エリア」、「個」⇔「組織」等、規模や分野、役割が異なる中で互いの環境問題に対する解決策の連動や、成果の相乗的効果の重要性を理解し、環境問題をテーマとした俯瞰的な視点に基づく実践的な問題発見解決プロセスを修得します。

これらから、学生は所属する学科や研究室以外の専門領域について理解を深め、行動する技術者に求められる幅広い知識の融合から効果的な解決策を創出するスキルが身に付きます。また、地域や企業との連携により、直接地域住民や企業の技術者と接点を持つことで、学生は異なった立場や役割を理解し社会を構成する一人の地域住民として、さらにはグローバル社会の一員として「環境マインド」を醸成することが可能となります。

また、プロジェクトテーマの設定やその実践には、学生の学習を支援する教職員そのものが社会や企業との密接なつながりを持つ必要があります。その教育プロジェクトの運営には、学部・学科・研究室の枠を超えた教育実践体制が必要不可欠であり、環境問題をキーワードとする教育プロジェクトの融合が、学科や研究室の枠を超えた横断的なFD活動を実現します。

このように、学生、教職員が共に環境問題をテーマとした教育プロジェクトに取り組み、本学の教育実践に「KIT 環境マインド」という新たな教育付加価値をもたらすことで、社会的ニーズに対応する本学の教育の質の向上を継続的に図って参ります。